

## 藤田浩子の 少し昔のこと 〈82〉

## いろはの続き

「いろは」は江戸時代から明治時代まで、しっかり日常生活に根付いていましたから、いろいろな事柄に使われました。一番有名なのは江戸の火消し47組（のちに48組に）でしょうか。「い組」「ろ組」「は組」…最後の「せ組」「す組」まで、47組でした。有名なのはテレビにもよく出てくる「め組」でしょうか。浜松町から芝大門のあたりを担当していた火消し組合です。江戸時代から「め組の喧嘩」などのお芝居にも使われたので有名になったのでしょうか。

また47文字の中には、さすがに使えない字もあって（へ（屁）組。ひ（火）組など）は数字に置き換えたそうです。

私が知っているので、次に有名なのは日光の「いろは坂」でしょうか。上り坂下り坂合



わせて48の急カーブがあるとか（上り専用下り専用別の坂になっている）日光は紅葉も有名ですが「いろはもみじ」という木もあります。葉が7枚に分かれていて「いろはにほへと」の7文字を当てたのでしょうか。小学校も1年い組、1年ろ組…という学校もありました。お風呂屋や芝居小屋の下足札も「いろは」でした。

「いろは」を使ったなぞなぞもありました。子ども向けには、A我がの顎に垂れるものなあんだ、Bチリの上にあるものなあんだ、C奥山はいつ越える？ D穂の下からも戸の上からも匂ってくるものなあんだ、など。少し大きい子なら、①戸の上下隙間あり、②笛の中を通り弓の中を通り俵の中に入るもの、③奥山の毛の下にあるひと文字は声に乗せてぞあきらかになる、先月載せた「いろはうた」を縦に書いて、にらめっこしながら考えてみてください。

答 A—よだれ、B—戸、C—今日、D—屁。  
①—へちま、②—米、③—麩。

リレー連載 <215>

## わたしの大好きな絵本

松丸直子（NPO こどもすぺーす柏 ポレポレ）

子どもの頃、お話やアニメ、歌の歌詞に出てくる登場人物の「名前」と同じ名前を持つ友達を羨ましく思っていました。その名前になれば、自分もその登場人物のようになれる気がしたからです。

三つ編みの可愛い女の子や、元気いっぱいのお魔女……「なれたらいいな」「こんなことができたなら」「私だったらこうするな」と思い巡らしていました。

両親は絵本の読み聞かせの際、登場人物の女の子の名前を私に置き換えて読んでくれることもありましたが、でも、この一冊はその必要はありません。

なぜなら私と同じ名前の「なおちゃん」のお話だ

『いってらっしゃーい いってきまーす』

神沢利子さく 林明子え

福音館書店

からです。なおちゃんは不思議な力を持つわけでもお姫さまでもありません。ですが、小さかった私にとって等身大の主人公でした。登園の時の向かい風や信号の押しボタンの魅力、お買い物で夕飯を当ててみる……私にとって何気ない日常を、絵本の中で過ごしているなおちゃんを見ると、私自身の普段の日常も絵本の中身のような特別感を感じられました。

「日常」を「別世界」のように変えてくれた特別な一冊です。

